

初の農福連携セミナー

全農いばらき

【いばらき】JA全農いばらきは21日、初の農福連携セミナーを水戸市で開いた。JAグループ茨城が取り組む持続可能な開発目標（SDGs）を実現する活動の一環。県の農業技術課、障害福祉課の職員が参加した他、オンラインでJA常陸など県内7JAの担当者が加わり、合計約40人が農福連携について学んだ。

適性に合った割り振りが鍵

セミナーでは、水戸市の障害福祉サービス事業所「たけのこワークス」の利用者が葉ネギの出荷調整作業を公開。外葉むきや葉の折れなどの点検、箱詰めを手際よく行った。利用者らが円滑に作業するため、適性に合わせて作業を割り振るマニュアル作りが有効であることを共有した。

埼玉県のロイヤルコーポレーション農福連携事業部責任者、高良龍さんは、講演で水戸市の鯉淵学園農業栄養専門学校から農地を借り、就農支援の取り組みを開始した経緯を説明。「障害者と無農薬野菜を生産し、元気な地域づくりに貢献したい」と話した。

埼玉県で就労継続支援B型施設「NPO法人恵みの里」を運営するアルファイノベーションの山田浩太社長が「農・福・商連携事業への取り組み」について講演した。農福連携のポイントとして①お互いのニーズを理解し調整を図る②作業の複雑化を防ぐため品目を固定③作業を細分化（単純化）し効率化を図る―ことを強調した。

全農いばらき農機営農支援部の大関和彦部長は「単なる労働力確保のためではなく、全体的に人が生きがいを持つて参画できる社会づくりを全力で拡大したい」と意気込みを語った。



仮設の作業台で葉ネギの出荷調整作業を披露する「たけのこワークス」の利用者（水戸市で）